

## ムハマド・カリル・ビン・アブ・アズィズ(マレーシア)



私はマレーシアから来たムハマド・カリル・ビン・アブ・アズィズと申します。

マレーシアは 329,847 平方キロの国土に 13 の州と 3 つの連邦直轄領から成り、人口は約 2,700 万人です。首都はクアラルンプールですが、政府機関が集まる行政都市はプトラジャヤとなっています。

マレーシアは南シナ海によって半島マレーシアと東マレーシアの2つの地域に分かれており、タイ、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、フィリピンと隣接しています。マレーシアは赤道近くに位置し、熱帯気候帯にあります。マレーシア国家元首は国王(通常アゴンと呼ばれます)ですが、実際の政治は、首相を首班とした内閣が行っています。

私はコタキナバル国際空港にあるマレーシア気象局で課長補佐兼気象予報士としてモニタリング、予報、公共及び航空関係機関などへ気象警報などを発令することを職務としており、また気象関連の災害が発生した際および発生しそうな際には、防災委員会のメンバーに対して概要の説明や、調査や救助の為に気象情報の提供なども行っています。

海に囲まれた熱帯気候のマレーシアでもっとも多い災害は洪水で、北東モンスーンの時期(11月~3月)に起こるものがほとんどです。ボルネオ島のサバ州では、過去にフィリピンを通過した熱帯低気圧の影響で豪雨と洪水が発生し、甚大な被害をもたらされました。また、マレーシアは地すべり、鉄砲水、煙霧、森林火災などの災害が起こりやすい国でもあります。

私は 2009 年 1 月~6 月まで ADRC の客員研究員として日本に滞在しています。この客員研究員プログラムは研究員達との情報共有や、防災に関する情報ネットワークを広げる機会を提供してくれます。ADRC や日本政府に対し、客員研究員としての機会を与えて下さったことに感謝いたします。この経験は、私の災害への知識や理解をさらに深めてくれるだけでなく、私や私の所属機関とマレーシアにある防災関連機関との協力関係を更に強化してくれることでしょう